

くらし・家庭

多くの生きづらさを抱えた思春期の子どもたち。その生きづらさがさまざまに「依存」につながっているといえます。おとなは一体、どんなことができるのか。埼玉ダルク理事長で自由の森学園教諭・西田隆男さんの話から紹介します。(堤 由紀子)

埼玉ダルク理事長・西田 隆男さんの話
自由の森学園教諭

思春期の発達課題は三つあります。

発達課題が 生きづらさに

一つは第二次性徴で性的に成熟する「生理的変化」です。

二つ目は、いい意味で絶対的な存在だった親への反抗で、親子の力関係が変化して自立する「心理的変化」。この変化が一番大きいですね。「うちの子、中学生になって反抗ばかりするんです」という親御さん、それは正常です。「反抗期ってそういうもの」と思えば対応が非常に楽です。

家族内の人間関係が機能していれば、ものすごい口げんかをして一晩たてばさっぱり忘れて元通り。「反抗期がないの

思春期の生きづらさ

「依存」の問題から考える

①



スイセン＝栃木県岩舟町

かな...」というぐらいう上手に乗り切れることもありませぬ。

三つ目が、小学校から中学校へと学校のシステムが大きく変わり、人間関係も複雑になる「社会的変化」です。これらの発達課題が生きづらさに



西田さん
64歳、暴力行為は5万9618件(08年度)。実際はもっと多いでしょう。思春期の子どもは生活のほと

つながり、10代のさまざま
まな問題を引き起こして
いるといえます。

背景に横たわる 現代的な問題

生きづらさの背景には、
現代的な問題も横た
わっています。

はじめが8万4
648件、暴力行
為は5万9618
件(08年度)。実際
はもっと多いでし
ょう。思春期の子
どもは生活のほと

*ダルク(DARC)

薬物依存症者が入寮
し、同じ悩み(病氣)を
持つ仲間と協働して回復
するために、これまでと

んどを学校で過ごすにも
かわらず、学校が生き
づらい場所になってしま
っています。自殺は年間
3万人を超え、リストラ
によるホームレスが増加
しており、おとなになる
ことへの希望も見えませ
ん。

しかも今は、親に、子

違った生き方をする練習
の場。自助グループや医
療機関との連携を行う。
北海道から沖縄まで全国
40数カ所にある。

ごく身近なものです。

特徴は①のめりこむ②
コントロールできなくな
る③問題を否認する④進
行性の病である⑤習慣化
する⑥家族など周囲を巻
き込む⑦治療と回復が必
要となる、の七つです。
嗜好か依存かの境目は難
しいのですが、一番わか
りやすいのは二つ目の
「コントロールできるか
どうか」。依存が並行し
たり、一つの依存から別
の依存へと移っていくの
も特徴です。

中高生の依存症で圧倒
的なのは、ネット依存で
す。人に迷惑をかけるこ
とが少ないため、なか
か問題視されません。そ
れから摂食障害。拒食に
比べ、吐いては食べを繰
り返す過食はわかりにく
いものです。

自傷行為も多いです
ね。リストカットだけで
なく、自傷行為としての
ピアスやタトゥー(刺
青)も増えています。

深刻なのが万引きで
す。行為そのものが快感
で、1日に何件もやって
しまう。脳の状態を調べ
たら、麻薬をやった後と
同じような状態になって
いたといわれています。

(つづく)

アティクシオン・嗜癖の対象となるもの

 カルト集団	 ギャンブル	 スポーツ	 ドラッグ	 カフェイン	 ニコチン
 パソコン	 ゲーム	 スポーツ観戦	 シュガー	 食べ物	 薬
人間関係					
 恋愛	 虐待(暴力)	 セックス	 拒食	 過食	 アルコール
行為					
 ワーク	 ショッピング	 ダイエット			

イラストレーション/坂田哲朗

☆もの「行為」「人間関係」の境界はあいまいで、両方にわたっている場合が多い。
『JUST FOR TODAY(今日一日)』Ⅲ―薬物依存症からの回復―から(東京ダルク支援センター編 西田隆男さん編集)

誰でもなり得る可能性のある、実は

害あるのに やめられず

依存症とは「書
があるのにやめら
れない不健康な習
慣」です。生活の
バランスをとり、
ストレスを発散さ
せるために何かに
頼ることですね。

誰でもなり得る可能性のある、実は